

木森山水道

挿絵/こうきくう



ツイン アルステラ

調教洗脳で悪堕ちする正義のヒロイン

18

未 満

二次元ドリームノベルズ

試し読み版

第一話	昼休みの戦い	006
第二話	打倒正義	033
第三話	牝開発されるエレガント	066
第四話	牝洗脳哀願のエレガント	093
第五話	強欲の悪堕ちヒロイン	141
第六話	テラチアフルを襲う調教開発の罠	188
最終話	調教洗脳完了！	243

登場人物紹介

Characters



あおぞらあきひ

青空 旭 / テラチアフル

森山学園に通う、明るく元気な女子生徒。善の地球意思【ゼンアース】との邂逅によって、正義のヒロインであるツイン・アルステラの一翼テラチアフルへ変身する力を身につけた。



せいしん みつき

星辰 美月 / テラエレガント

才色兼備で物腰柔らかな森山学園の生徒会長。旭とは学園に入ってから知り合ったが、今では彼女に対して親友以上の想いを秘めており、テラエレガントとして共に悪の組織に立ち向かう。

みちすすむ

道進 / ダーティーダーク

悪の地球意思【アクアース】の超常的力を使う悪の組織ISDのボス。自らを弱者と称し、暴虐な手段で世界を変えようと企む。表の顔は生徒会副会長を務める森山学園の男子生徒。

第二話 昼休みの戦い

午後十二時四十分。

首都圏のM県もりやま森山市の駅前。

抜けるような秋空の下、大勢の人々が行き来している。

そんな中。

夜山銀行、森山駅前通り支店に面した舗道上に、ぼっかりと紫色の穴が現れた。

「なんだ、これ？」

通りすがりの人々がそろって足を止め、不可思議な現象をまじまじと見る。

穴は縦二メートル、横四メートルほど。

人間ふたりが並んで行き来できるサイズだった。

歩道に直立する風に浮いている様子といい、まるでトンネルのよう。

もつとも、奇妙なトンネルには奥行きがない。

まるで、宙空にポスターでも貼ったかのように平面的なのだ。

サッ。

突然、穴から人影が躍り出る。

黒ずくめの男だった。

中肉中背のラインを浮き上がらせる、肌にピッチリした黒いスーツを纏っている。

それだけでも浮き世離れしているというのに、颯爽となびく赤いマント、手首を超える程度でテラテラと黒いグローブ、同じような外見で脛の三分の一までくるブーツを身に付けている。

しかも、目を隠す黒く角張ったマスク——いわゆるヴェネチアンマスクまで貼り付けていた。露出する頬や口元は若い男のそれである。

若さはどうあれ出で立ちは、ゲームかアニメの住人だった。

「フンッ」

周囲を見回し、小馬鹿にするように鼻を鳴らした男は、軍人みたいにキビキビした歩き方で銀行の目の前に移動する。

ゴム製のブーツのかかをとを鈍く鳴らし、血を彷彿とさせる真っ赤なマントをひるがえしながら、トンネルのほうへ向き直った。

「なにかのコスプレか？」

「これって……あの犯罪者集団じゃないの？」

人々がざわめく中、ひとりまたひとりとトンネルから現れる。

先頭は女だった。

マントこそないものの、同じような黒ずくめのコスチュームで、滅多にお目にかかれないくらいにメリハリのある、グラマーボディを披露している。

マスクの下から見える肌は艶やかで、唇も清楚な桃色。

奇天烈な衣装の下には、うら若き乙女の姿があることを期待させた。

そんな彼女の後に続き、同じような黒ずくめの男女が次々と飛び出してくる。総勢、五十人弱の黒ずくめは、マントの男の前で四列縦隊になった。

「間違いない……こいつらは……」

「あ、ああ……アイエスデューだ！」

人々が蜘蛛の子を散らして逃げ出していく。

「無駄だ。逃がしはしない……【アクアース・ケージ】！」

叫んだマントの男が、高々と両手を突き出す。進む、毒々しい紫色の光。

光の帯は、半径数百メートルのドームを形成し、建物も人も閉じ込めてしまう。

「なんだこれはっ……か、壁ができてるっ」

物質的な光の壁の前で人々が立ち往生する中、マントの男が叫ぶ。

「作戦を決行する！ 貴様らの使命を言ってみろ！」

黒ずくめが、声をそろえて叫ぶ。

「銀行強盗！」

「拉致誘拐！」

「【アクアース・ゲート】の確保！」

それは、黒ずくめたちが出てきたトンネルのことだった。彼らの不可思議な力で任意に生んで消せるもので、色々な場所へ短時間で移動できる特殊な空間の穴なのだ。

「作戦時間は十分。十二時五十二分には撤収を終えるっ」

「[[[[[I S D ! I S D ! I S D !]]]]]」

「強者と癒着し肥え太り、弱者に横暴を働く醜い銀行にも、我々のような困窮者をそのま
まに、自分らだけの目先の幸せを貪る鬼畜にも、我々ISDの力を見せつけるのだ！」

「『ISD！ ISD！ ISD！ ISD！ ISD！ ISD！ ISD！』」

「よし、かかれいッ！」

黒ずくめが突風のように散る。

十数人は目の前の銀行に殺到。

すっきり青ざめた窓口の女性に、金を出せと恫喝する。

数人は逃走経路に陣取って、周囲を警戒。

残りの者たちは、逃げ遅れた一般人に襲いかかる。

「おっ、マスクの【リア充力】測定機能が高い数値を示しやがった……その女！」

「ひいいつ……いやあ、来ないでえ！」

「やめろお、この人はぼくの大切な恋人なんだ！ やるのならぼくにしろ！」

「お前もなかなかの数値だ。感謝しろ、一緒にラチってやる」

「むざむざやられてたまるかッ！」

殴りかかろうとした彼氏に、居合わせたサラリーマンが警告する。

「よせッ！ こいつらは普通じゃないんだっ。超人的な力を持っていて、常人じゃ歯が立
たない！ 動画で見たが、コスチュームは銃弾すら弾く！ 痛い目に遭うだけだぞっ」

彼氏は諦めなかったが、男の言葉の正しさを証明しただけだった。

恋人ともども、トンネルへと連れ去られていく。

そんなところへ。

「そこまでよッ、あんたたち！」

元氣な若い女の声が、駅前ビルの谷間に木霊する。

「げえっ！ この声はっ」

「おおおおお、おiiiiいッ、悪事を始めてまだ五分くらいだぞっ、もう来たのかよ！」

色めきだったのは、黒ずくめの一団だった。

常人の及ばない圧倒的な力でやりたい放題の者たちは、仕事を放棄してガタガタ震える。

「ああっ……あのふたりはっ！」

「やった、助かった！」

「反対に、市民たちが安堵で瞳を輝かせる。

悪と市民の視線は、銀行の向かいの立体駐車場の屋上に注がれた。

まるで禍々しい空間の中で輝く光明のように、赤と青のヒロインが仁王立ちしていた。

ふたりは颯爽と飛び降りる。

「真打ち登場ですわ」

肌にフィットする黒い手袋の甲を優雅に顎に当て、悪のボスを見やったのは、青いヒロインだった。

青を基調とし、身体に張り付くタイプのワンピースを纏う乙女である。

空色の長い長い後ろ髪を、寸分の狂いもなく、照り光るニーハイブーツのふくらはぎで切りそろえ、ほっそりしたこめかみに喉元くらいまで後れ毛を流す女の子は、端麗で知的



手のひらは秘所のすぐ側にヒトデのように張り付いていた。

「そ、そこは……ッ！」

悪の牡勃起を頬張る膣口の少し上の、クリトリスに指先が向く。

陰核は皮が剥けて中身が露出している。

そこは、淫乱に穢された身体の最後の砦だった。

触れられずに残った最後の場所。

愛するパートナーを思いながら刺激して、片想いの情熱を満たしていた神聖なスポットでもある。

大切なその場所に、自分をとことんよがり狂わせる魔性の指が。

「い、いけませんわッ！　そこだけは……そこだけは許してくださいませ！」

快楽で脱力するカラダを必死に揺すって、泣き叫ぶ。

「当たり前前弱点すぎて今まで触れてこなかったが、最後にシてやる」

乳房と秘部に手を置く悪のボスは、両腕に力を込める。

健気な抵抗を凌駕して完全に押さえつけながら、陰核に人差し指を這わせる。

「ひっ……い、いやッ……およしになって……ああッ、あああああああ！」

制止の言葉が、すぐに艶やかな嬌声に変わった。

悪の指は、クリトリスの側面を丁寧になぞる。

精密なまでに的確な愛撫は、うなじに鳥肌が立つほどの心地よさ。

肉棒を咥えて左右に広がる秘唇から、白い本気汁がドッと溢れる。

たっぷり出された敵のザーメンを押し流し、牝蜜のナマの匂いをくゆらせた。

「もっと感じるがいい。貴様のなにもかもが剥がれ落ちた牝の顔を見せろ」

ダーティードークは、指を離す。

結合部から溢れる白い汁をたっぷり絡ませてから戻し、またソフトにソフトに愛撫。

「ううっ……うああああ………ハア、ハア、はひいッ、ひッ、ひいひいひい！」

ヌメリを帯びたお陰で、摩擦がまるやかになっていた。

快感は跳ね上がり、悦びが脳天を突き抜けていく。

あまりの愉悅に、敵に抱きすくめられる女体は痙攣。

品性のない獣じみた叫び声を上げてしまう。

「うッ、ううひいひいッ、ハアッ、ハアッ、こ、こんなのお………こんなのありませんわ………！」

愛するパートナーを想いながら。

窃盗した彼女の下着を使いながら。

その机で励んだ角オナ。

最高に気持ちいいと思っていたのに、記録は更新されてしまった。

悔しいが、今のほうが断然、気持ちいい。

もしも選ばなければならぬなら、悪のボスにクリトリスを可愛がってもらおう。

「お、おとお、覚えてしまいましたわ……カラダがア、この快感も覚えましたのオッ！」

肉体は、より大きな悦楽に正直だ。

それは、何度も性感のタイ記録を更新されてきたので、思い知らされている。

もう、これなしではいられない。

心から慕うパートナーを想ってする自慰では満足できないに違いない。

耽ったとしても、悪のボスの寵愛を思い出して切なくなるに決まっている。

「しもべになれば、いくらでも味わえる」

心のグラつきぶりを見透かした風に、ダーティーダークが甘く囁いた。

自分をここまで調教した張本人の誘惑が、ボロボロの心に染み込んでいく。

「だが、ならないのなら味わえない。絶対にだ」

「あうう……絶対に……味わえませんのお………?」

期待させられた分、突き放す言い方の攻撃力は絶大だった。

心の中で、愛するパートナーの笑顔が木っ端微塵に砕け散る。

「な、なりますわ……あなたのもべになりますわ……!!」

慌てたような懇願が、会場に響く。

見世物でも見るように見ていた悪の構成員が、正義のヒロインの陥落に歓声を上げた。

「オレのしもべになるのだな？」

クリトリスの摩擦を速め、乳房をより激しく揉み、ソファアの弾力を利用した突き込み

を始めながら、悪のボスは屈服の言葉を引き出しにかかる。

もつと聞きたかった。

欲しいと思った女が、真逆の性質の悪になびいた証明の台詞を。

自分のものになったという誓いの言葉を。

「あッ、ひあッ、だ、ダーティーダーク様のしもべになりますわ!」

性感を与えて堕ちた心を丸裸にしながら、所有欲を満たすと同時にますます興奮させてくれる内容を引き出す。

正義のヒロインとして自分たちと戦っていたときには、絶対に口にしなかった言葉を、吐露させにかかる。

「誰だ？ 誰がオレのしもべになりたいのだ？」

「わ、わたくしですわッ、わたくしことテラエレガントオッ!」

青い戦士の屈服宣言に、会場がさらに沸く。

「チアフル申し訳ありませんわッ、わたくし、ダーティーダーク様のしもべになります!」
「オレとセックスしたいからだな？」

「そ、そうですねあッ、ハア、ハア、だ、ダーティーダーク様とセックスしたいからア、チアフルを裏切りますのオ!」

「仲間を裏切る貴様には、セックスなどという上品な言葉を使う資格はない。オマンコと言え。この卑語には、セックスするという意味もあるのだ」

「かしこまりましたわ、ダーティーダーク様あ! わたくしは、ダーティーダーク様とオマンコしたくて堪らないからア、大切なチアフルを裏切りますのオ! オマンコでできるなら悦んで裏切りますわア!」

会場が熱狂に包まれる。

「悪のしもべになるってだけじゃなく、あの正義のヒロインがオマンコしたい、かよ!」

「どうやら本当に堕ちたみたいね！　最初は服従するフリをして、舌に噛みついたのに！」
満足そうに言い合っている。

「いい気分だっ」

ダーティーダークも同じだった。

しつこく楯突いていた正義のヒロインをものにした達成感で、すぐにも射精しそうなくらいに気持ちいい。

無論、肉体的な快楽も最高だった。

ハリのある美巨乳の感触を堪能しながら、瑞々しい女壺を楽しむ。

最後までとっておいた泣き所の、皮が剥けた陰核の弾力を味わいつつ、若い膣を食る。

堕ちた戦士の膣は、正式に主人となった悪のボスの肉棒を、嬉しそうに食い締めている。

膣ヒダは隅々に絡みつき、グイグイ押しきてきて、奥に向かって蠕動。

開いたままの子宮口はますます降りている。

蕩けた厚めの肉は亀頭の半分近くも覆い尽くしていた。

尿道の奥で待機する悪の精子を吸い付くすと言わんばかりに、猛烈に吸引している。

「出すぞテラエレガントッ！　オレの牝のしもべよっ、再び悪のエキスを呑むがいい！」

肉棒を突き立てる資格が十分の。

牝のシンボルの味を覚え込ませ、種汁をたらふく吞ませたくなる正義のヒロインの。

自分で選んで、相手もこちらを選んだ、その女の牝の芯に敵の子種を吐き出す。

溺れるほど、吞ませる。

卵子の待機場所に続く神聖な場所に注入される感触を覚えさせて。

その快楽を脳内に刻みつけて。

自分から離れられないようにする、マーキング子宮内射精。

完了したならば、悪堕ち牝ヒロインに生まれ変わる、破滅のザーメン注入。

これに当の本人は。

青い戦士テラエレガントは。

パートナーと戦い続けた正義の戦士は。

「あああッ、アッ、アッ、はアアッ、お、お出しになつて、ダーティーダーク様あん」

媚びた声で。

おもねる嬌声で。

心から迎合した、牝の声で。

本気のおねだり。

さらに子宮を下ろし、妊娠をねだるかのようにガッポリ悪の亀頭を啜え込んで、溢れる先走り汁を貪欲に呑みながら、浅ましき百パーセントの快楽追求腰振り。

「わたくしに、ダーティーダーク様の熱いの注いでくださいましィ！ あなた様とのオマシコ大好きテラエレガントの子宮にい、たっぷり出してェン！」

勃起乳首の肉房の裏側まで見えるほど上下動。

頭皮から伝う汗で、幻想的なまでに輝くようになった長い髪を舞い上がらせる。

主人と認めた悪の男の手首にしがみつきながら、息を合わせて腰をくねらせた。

「ダーティーダーク様とオマンコイキたいですのお！　ご一緒させてくださいませイ！」
上品な言葉遣いで下品にねだる。

「イケ、エレガント！　オレに射精されながらイケ！　悪のザーメンを一滴残らず呑んで
吸い尽くしながら、正義のヒロインマンコでイケッ！」

イ〜ケ！　イ〜ケ！　イ〜ケ！　イ〜ケ！　イ〜ケ！　イ〜ケ！　イ〜ケ！　イ〜ケ！
沸き返る悪の構成員が、ライブ会場でのアンコールめいたコール。

命令したものの、自分の肉棒とザーメンでそうする心地で、悪のボスがとどめに入る。

膣の性感帯を残らず擦って、抉って、刺激しながら、熱い快楽の塊と化していた分身の
根元を意識して緩めながら、ソファアの弾力を利用して、最高に勢いよく腰を突き出す。

開いて先端を包み込む子宮口に向かって、思い切り射精。

ドグンツツツ！　ドググググ！　ドグビュウウツツツ〜！！

「んおおおおオオオオオ〜！！　ダーティーダーク様の子宮中出しいいいい！！」
自分が認めた。

いやらしい手管で認めさせられた。

また、自分をペニスの鞘兼ザーメン吐き出し口と認めてくれた。

優秀な牡の、女の芯への直接射精。

カラダの隅々を征服された被虐感と、従属の絆が構築された実感で、また気持ちよさが
更新。

失神しそうなくらいの快楽を味わって、エレガントが弾かれたように仰け反った。



ですけれど、ウブなあなたらしさが溢れていて、堪りませんわア」

エレガントは、本当に嬉しそうに品評する。

「ああ……これにわたくしのクリちゃんやオマンコを触れさせることができたなら、きつと素晴らしい快感なのでしょうねえ……角オナよりも気持ちいいでしょうねエ……」

トロンとした目つきで、わけのわからないことを言ってくる。

「よからう。少し、代わってやる」

悪堕ちヒロインの淫乱な呟きに、ダーティーダークが顔を上げ、許可を出す。

溢れ出したチアフルの愛液で口元を照り光らせながら、エレガントを見つめる。

「あああッ！ よろしいのですか、ダーティーダーク様っ！」

「お前の心は知っている。叶えてやるのが主人の器量というものだ。それに、大切なパートナーに犯されたら、性感帯の開発が進むだけでなく、テラチアフルの心はますます弱るに違いない」

「ありがとう存じますわ、ダーティーダーク様ッ！」

エレガントは満面の笑みを浮かべる。だがそれは、正義のヒロインだった頃の優美な笑みではなかった。似ても似つかない、邪悪で淫乱な微笑みだ。

「トランスフォーム」

すつくと立ち上がるなり、静かに呟く。

「え、エレガントっ」

驚きに見開くチアフル。

なんと、エレガントのコスチュームが、卑猥に変化したのだ。乳房にフィットする布地は、丸ごとなくなる。

たわわに実ったスイカみたいな豊胸が、裸になったのだ。変化はそれだけにとどまらない。

秘部の周辺の布地も円くなくなり、無毛の陰唇が剥き出しになった。

早熟なエレガントの肉唇は、発育途中のチアフルと違い、こんもりと卑猥に育っている。しかも、かなり肥厚していた。

大きく開き、同じように充血した桃色で赤い小陰唇や膣口すらも丸見えである。

「それって……」

「ウフフ、あなたがダーティードーク様のお口で犯される様子を見て、興奮しましたの」
パツパツ開いた股間から、愛液の粘糸が長く糸を引いて降りていく。

秘部全体からは、湯気がくゆっていた。

もう、いつでも本番性交ができるほど昂っているのは、誰の目にも明らかだ。

エレガントの興奮したという言葉は、決して誇張ではない。

「楽しみですわあ……チアフルのオマンコを、わたくしのドスケベオマンコで食べられる
だなんて」

ふしだらな期待で胸を高鳴らせながら、エレガントが移動する。

ダーティードークが脇にずれ、空いたそのスペースに入った。

「あ……ああ……なにをするつもりなの、エレガント……」

悪堕ちヒロインの凄絶な気配に当てられて動けないチアフルが、声を震えさせる。

「とおつても、いいことですわ……えいつ」

含み笑いしながら、腰を突き出すエレガント。

ぐちゅ……。

「え………えええツツツ！」

あろうことか、エレガントは自分の秘所を赤い戦士の秘所に押しつけた。

片側の太ももに赤い戦士のそれを乗り上げさせ、逆に反対の太ももを彼女のものに巻き付かせる。そうして、ムチムチしたふたりの太ももを絡ませながら、先ほど悪のポーズとしていたディープリキスみたいに、グイグイ密着させていた。

「ソフ……貝合わせという体位ですわ……女性器は貝にたとえられるもの。それを合わせるから、貝合わせ」

歌うように説明しながら、ゆっくり腰を振る。忠誠を誓う主人が唾液や口や舌の感触を刻みつけた場所に、とめどなく溢れる自分の愛液を塗り込めていく。

「うっ……やめてよエレガント……こんなの変だよお……」

ときどき、堪らなそうにギョツと目をつむりながらチアフル。

悪の手先と化したパートナーの秘唇は、ただでさえきめ細かい雪肌。

触れれば吸い付いてくる上質の肌触りなのに、ヌルヌルの愛液のせいで、吸着力が増している。

柔らかい粘膜が離れては吸い付いてくるのは、不思議な悦楽を味わわせる。

搔痒の快感を濃密にしたような心地よさで、ときどき股間が痙攣してしまふ。

「変ではありませんわ。女性による女性への愛情表現の一種ですよ……んっ、んっ」

余裕のある表情をしているエレガントも、徐々に息を乱していた。

上品な声は官能を帯び、聞くだけで劣情を煽るほどに卑猥だ。

「素敵な気分ですわあ……やはり、角オナよりも素敵ですわねえ……」

少し腰をずらし、自分の陰核とチアフルのそれを擦らせた。

陰唇を刺激し合うふたりのクリトリスは、皮が剥けるほど勃起している。

興奮は感度を上げ、より快感を楽しめるようにしてくれるもの。

肉の真珠は、もともと悦楽を得やすいものでもある。

触れ合い、潰れ合う度に、新しい愛液が溢れるほどの快感が、膣いっぱいに広がった。

「はあっ……か、かどおな？ はあ……はあ……」

角オナを知らないチアフルが、熱い気塊を吐きながら、頭の上に疑問符を浮かべる。

「こいつは教えてくれたぞ。貴様のショーツを盗んだことがあるとな。自分で穿いて、貴

様が学園で使う机の角に、股間やクリトリスを擦りつけるというオナニーをしていた。今

している風にだ。机の角でするオナニーだから、角オナというわけさ」

ダーティダークの解説に、チアフルがツバを飛ばして叫ぶ。

「う、嘘よっ！ はあ、はあ……エレガントがそんなことするはずないわ……！」

「いいえ、本当ですわ。あの日、あなたの下着をお金と取り替えたのはわたくしですの。

授業から少し抜けて変身し、ゲートを作って更衣室に忍び込んだというわけですよ」

「そんな……うう……んふう……はあ、はあ……ど、どうしてよエレガント……」

「あなたへの愛欲を自制できませんでしたの……ごめんなさいね、チアフル……お詫びに、もつと感じさせて差し上げますわ……ハア、ハア、早くダーティーダーク様の牝のしもべに洗脳していただけるよう、無垢なオマンコを調教して差し上げてよ」

エレガントが腰の動きを速める。悪のボスに徹底的に開発された自分の秘唇を押しつけながら、チアフルの処女の秘裂を捏ね回し、グチュグチュという愛液の音を響かせる。

「はあっ、はあっ、え、エレガントっ……エレガントおっ……！」

赤い戦士の性感が上がっていく。

愛液で絶妙にヌメる粘膜が擦れる悦楽。

グイグイ押されながら捏ねられているが故の振動快感。

ウブな秘唇は火が点いたように熱くなり、入り口が揺すぶられる女壺は甘い痺れの塊になっっていく。

正義の健康優良児の顔は上気して、細かい汗が浮かんでいた。

性的な興奮に目覚めて肥厚した唇からは、ひっきりなしに艶やかな呼気が溢れてくる。

「なんて可愛いチアフルは。正義のヒロインだというのに、悪に洗脳された仲間とオマンコを擦り合わせて感じているだなんて……ああ、快感が大きくなるばかりですわ！」

気持ちいいのは、責めているエレガントも同じだった。

悪に堕ちて淫靡で貪欲になった蜜壺は、蕩けるような悦楽で満ちている。

ずっと大好きで、愛欲すら覚えていた赤い戦士と、女の悦楽をわかちあう多幸福感もある。



この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>

ライトノベルのドキドキじゃ満足できないアナタに送る官能小説雑誌!

妄想最前線を疾走する非現実系・不思議Hコミック誌!

正義感に燃える少女達をたっぷり陵辱! ヒロインのピンチ満載!!

【偶数月】
隔月発売
2-4-6-8-10-12月

【奇数月】
隔月発売
1-3-5-7-9-11月

【電子版】
毎月配信
書籍版は奇数月
発売!



二次元
ドリームマガジン
2D DREAM MAGAZINE

コミック O M I C
UNREAL
アバババ

正義のヒロイン
姦獄ファイル
Sins of Heroes

あなたのキモチイをお手伝い!キルタイムのアダルトコミック誌
全国の書店・各種通販サイト、およびダウンロードなどで好評発売中!

電子書籍版も
好評発売中!

二次元ドリームノベルズ

3D 美少女 3D
リアルな舞台設定で送る
官能小説レーベル!

日常に密着したエロス、
リアルな舞台設定で送る
官能小説レーベル!

戦うヒロインを屈服させちゃう
かなり過激な
陵辱系ライトノベル!

フリタム120%!?
シヤルにたられぬ
ドキドキ★ラブ!

女刑事美優
美優は自らの身体で...

リアルドリーム文庫

あとみつく文庫

呪詛喰らい師
キルタイムコミュニケーション小説シリーズ

あなたはどのタイプの?

二次元ぶち文庫

ハルク

あの人気作品の
外伝作品もあり!
電子書籍でしか読めないライトノベル!

「小説家になろう」の男性向けサイト
「ノクターノンノベルズ」
から書籍化!

異世界お茶会
デキる妹
Light Novel

ドキドキラブな
ライトノベル系
ライトノベル!

姫騎士 クラスメイト!
ビギニングノベルズ

二次元ドリーム文庫